

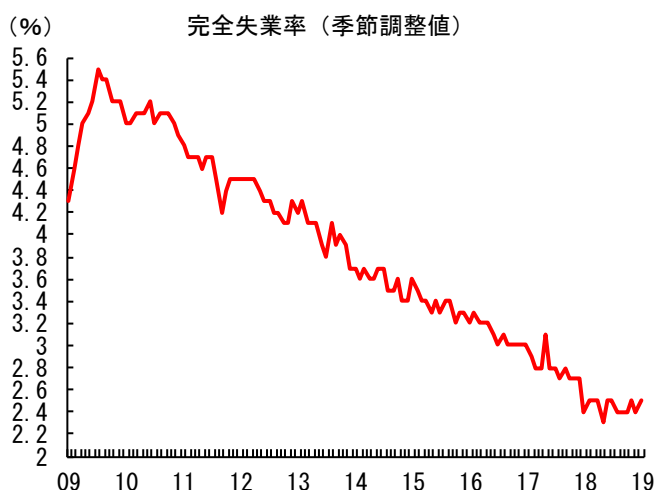
# Economic Indicators

発表日: 2019年3月1日(金)

## 労働力調査・一般職業紹介状況(2019年1月)

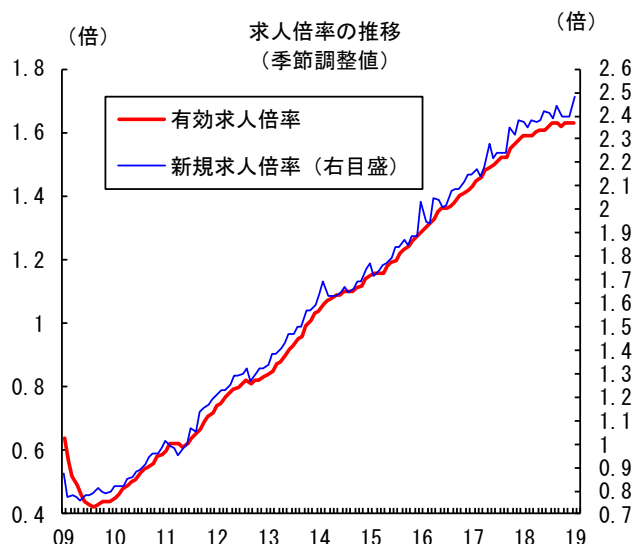
～雇用は増加傾向持続も、先行き増勢鈍化の可能性あり～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

### ○ 雇用者数が2ヶ月連続で減少

総務省から発表された2019年1月の完全失業率は2.5%と、前月から0.1ポイント悪化した(市場予想: 2.4%)。極めて低水準での推移が続いており、労働需給が逼迫している状況に変わりはないが、就業者数、雇用者数とも前月から減少する形での失業率上昇であり、内容は良くない。

季節調整済みの就業者数は前月差▲32万人(12月▲20万人)、雇用者数は前月差▲7万人(12月▲13万人)と、それぞれ2ヶ月連続の減少である。前年比でも就業者数、雇用者数とも2ヶ月連続で伸びが鈍化しており、雇用は足元で増勢が鈍化しているようにも見える。いまのところ18年前半に大幅に増加した後のスピード調整といった面が大きく、雇用の増加傾向は続いていると判断されるが、やや気がかりな動きである。

### ○ 求人数に頭打ち感

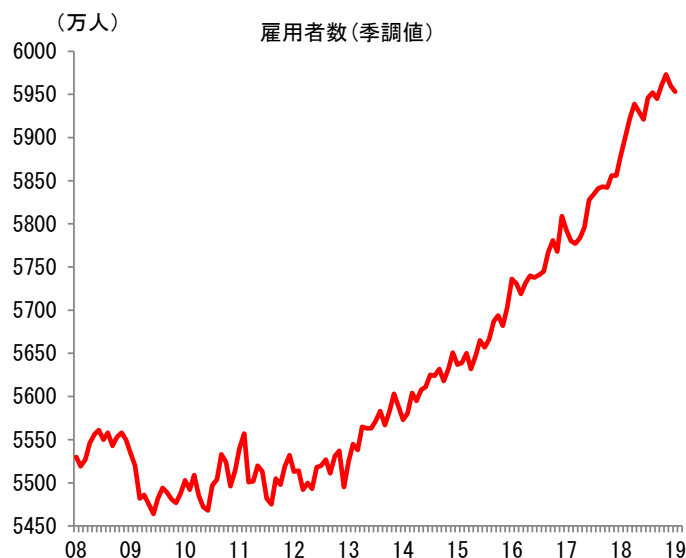
厚生労働省から公表された19年1月の有効求人倍率は1.63倍と前月と同水準、新規求人倍率は2.48倍と前月から0.08ポイントの上昇となった。有効求人数は前月比▲1.0%(12月+0.8%)、新規求人数は前月比+2.7%(12月▲0.1%)である。新規求人数の増加幅が大きい、やや不自然な動きであることから、来月には反動が出る可能性が高いだろう。有効求人数、新規求人数とも均してみれば一進一退で横ばい圏内の動きとなっていると判断される。18年に入ってから、景気の減速感が強まって

いることが影響している可能性が高い。

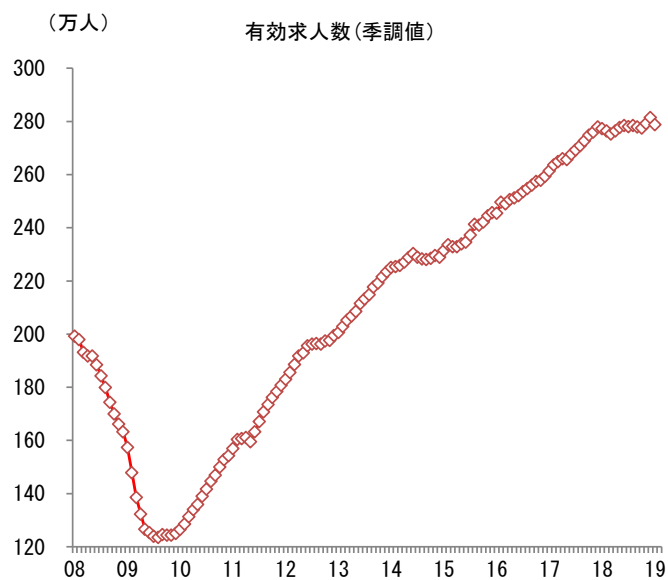
雇用者数はいまのところ増加傾向にあるが、これはあくまで景気の遅行指標である。雇用者数に先行する傾向がある求人数が頭打ちとなっている以上、いずれ雇用者数も鈍化に向かうとみるのが自然だ。好調な雇用情勢は足元の景気における数少ないプラス材料なのだが、今後も景気の冴えない動きが続くようであれば、次第に雇用関連指標にも陰りが生じてくることになるだろう。



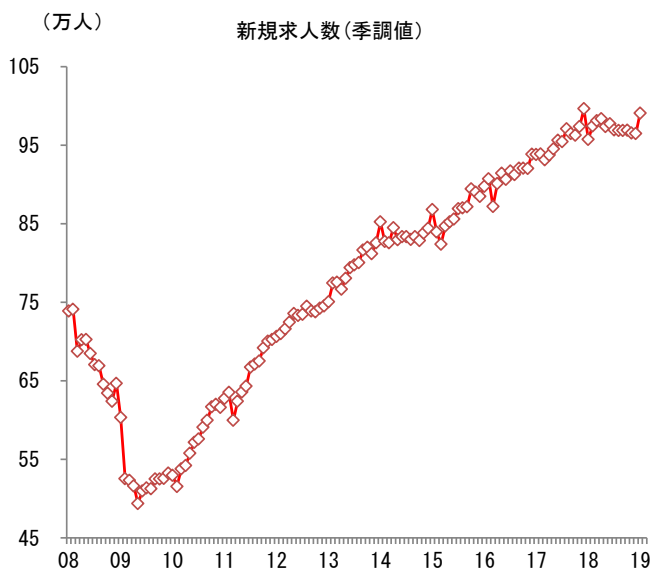
(出所) 総務省統計局「労働力調査」



(出所) 総務省統計局「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

